

令和 6 年度 分担研究報告書

母乳バンクドナー登録施設の不足や地域偏在の改善に向けた方策

研究分担者

西巻 滋

横浜市立大学

研究要旨

我が国の母乳バンクの運営にあたり、母乳バンク登録施設の不足や地域偏在が懸念される。赤ちゃん成育ネットワークの会員を対象に、アンケートおよび母乳バンクドナー登録の説明を行った。本報告ではアンケート結果を示す。

「母乳バンクドナー登録マニュアル 第 1 版」の存在は 71.4%が知っていた。また「地域に母乳バンクの登録施設があることは理想的か」との質問には「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で 85.7%と高かった。その一方で、「母乳バンクとのドナー登録施設の契約が難しいと思うか」との質問には、「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で 57.2%と半分以上となり、約 40%は「どちらでもない」「全く違う」と回答していたことから、契約のハードルは心理的な観点も含め低くなかった。また、「ドナー希望者との面談が難しいか」では、「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で 57.2%、「ドナー希望者の情報の管理が難しいか」に関しても、「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で 71.5%になった。

登録施設が増えることへの賛意はあっても、実際に登録施設になることへのハードルは高いと思う施設が多い。その解決には、母乳バンクからの支援が望まれていた。

A. 研究目的

日本での母乳バンクの利用は広がりつつあるが、全国的への広がりに向けて母乳バンク登録施設の不足や地域偏在が懸念される。そのために母乳を提供する思いを持つ母親が母乳バンクへ届かないことが想定される。

新生児医療に携わった経験のある医師を中心とした「赤ちゃん成育ネットワーク」へアンケートを行い、現状把握を試みた。赤ちゃん成育ネットワークは母乳育児支援に取り組んでいる会員も多く、母乳バンクのドナー登録にも協力的であると予想されることから、アンケート対象を赤ちゃん成育ネットワークとした。

B. 研究方法

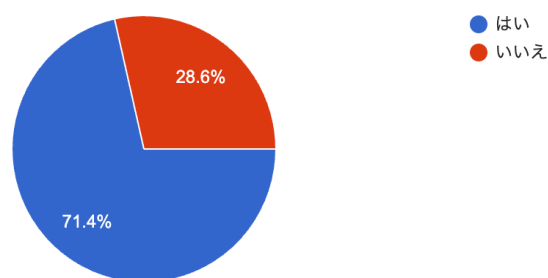
「赤ちゃん成育ネットワーク」の理事会での審査を経て許可を得た後に、2024 年 9 月に「赤ちゃん成育ネットワーク」の会員 198 名を対象に電子メールで以下を送付した。

- (1) 母乳バンクドナー登録の説明
- (2) ドナー登録マニュアル
- (3) アンケート

C. 研究結果

アンケートは 7 件の回答が得られた。

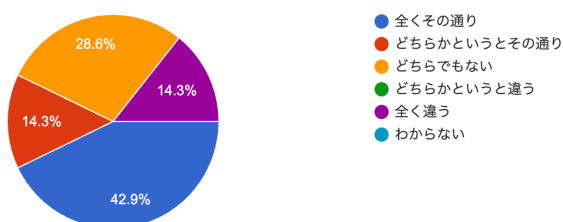
1. 「母乳バンクドナー登録マニュアル 第 1 版」があるのはご存じですか？



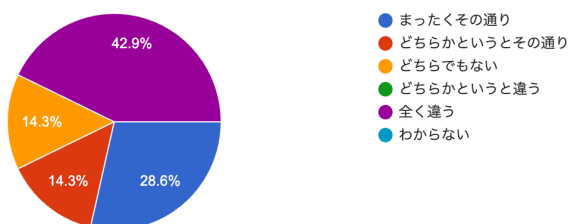
2. 母乳バンクドナー登録施設はまず母乳バンクとドナー登録施設契約を結ぶ必要があります。その後、母乳バンクからドナー希望者の連絡を受け、ドナー希望者との面談予定の設定をして、実際に面談を行います。面談を行うのは医師である必要があります。またドナー希望者の HBsAg、HCV 抗体、TPHA 抗体、STS、HIV 抗体、HTLV-1 抗体の検査実施日から 6 か月以上たっている場合には、ドナー希望者の血液検査をする必要があります。検査自体は母乳バンクが契

約している複数の検査会社の中でその施設が利用しやすい会社と契約した上で実施します。戻ってきた検査結果と面談の際に記入した書類を母乳バンクに送付することでドナー登録業務が終了します。仮に貴施設がドナー登録施設になる際、なった際に想定される以下の事項についてどのように考えられますか？5段階で評価してください（5：全くその通り、4：どちらかというとその通り、3：どちらでもない、2：どちらかという違う、1：全く違う、0：わからない）

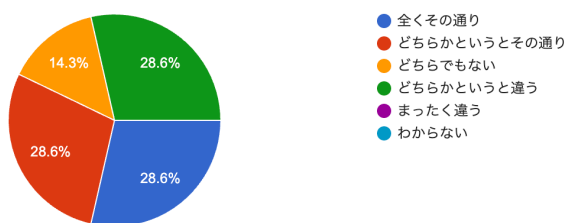
① 母乳バンクとのドナー登録施設の契約が難しい



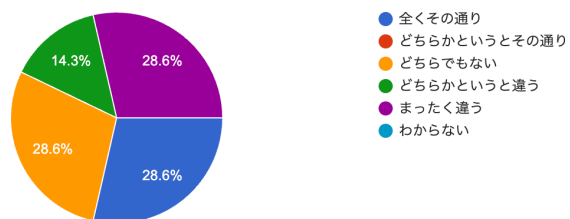
② 検査会社との契約が難しい



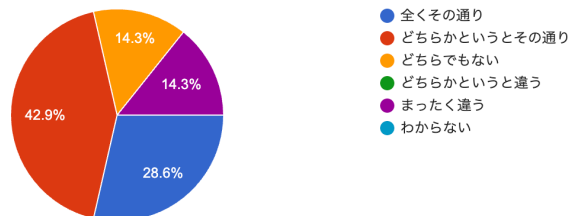
③ ドナー希望者との面談が難しい



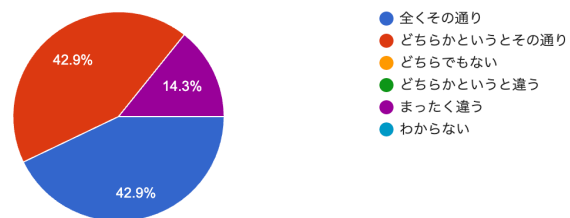
④ ドナー希望者の検査が難しい



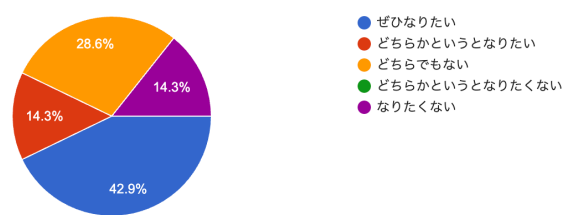
⑤ ドナー希望者の情報の管理が難しい



⑥ 地域のドナー希望者にとって利便性が高い



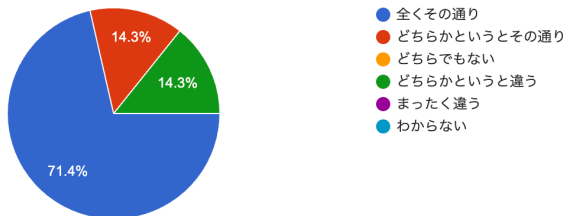
3. 貴施設が母乳バンクドナー登録施設になることについてどうお考えですか？5段階で評価してください。（5：是非なりたい、4：どちらかというとなりたい、3：どちらでもない、2：どちらかというとなりたくない、1：なりたくない）。



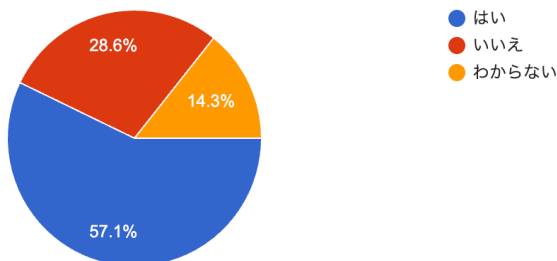
4. その回答理由について、できる範囲で記載してください。

- ・利用者にドナー希望者がいますが医師面談が必要となるとかなりハードルが上がります。純粋に母親たちが助け合う気持ちを優先すれば登録施設になる事は良いと考えます。また一般社団法人日本助産所会には嘱託医師がいて検査もできるようになっていますから法人契約が可能かどうかは聞いてみたいところです。
- ・マンパワーの問題が大きいです。
- ・ドナーミルクが必要だと思うため、意義は十分に理解できますが業務増加の負担に比べられるか不安が大きいです。
- ・地域でドナー登録を希望される方にとってはとてもメリットがあると思います。

5. 「母乳バンクドナー登録施設は各地域(県)に1つ以上が理想的」という考えについてどう考えられますか? 5段階で評価してください(5: 全くその通り、4: どちらかというとその通り、3: どちらでもない、2: どちらかというと思う、1: 全く違う、0: わからない)。



6. 母乳バンクから母乳バンクドナー登録施設になるための支援を受けられれば、ドナー登録施設になることを検討しますか?



7. その他、ご意見があれば自由にお書きください。

- ・ 一般の母親たちに母乳バンクに関する情報はほとんど届いていないと思います。産後ケア事業はかなり普及してきていますが、日本の場合、母乳育児のサポートは助産師が担っていますから助産師にもこの仕組みが浸透しないと利用度は上がらないのではないかと考えます。また母親たちでドナー希望の方は私が知る限りでは、乳汁分泌が多く、自分自身の子育ては順調であり何か社会貢献したいと考えている方たちですから、ドナー希望者を見つけていく事も困難であると思います。今は正常出産の方々でも母乳を飲まない傾向が強く、危惧しています。全体的に母乳育児支援の土壌改良をしつつ、その中でのバンク事業の定着を図るようにしなければ、結果として善き事業であっても持続可能かどうかという事になると思います。

D 考察

母乳バンク登録施設を増やすために、「新生児成育ネットワーク」に所属する小児科医を対象に調査を行った。

「母乳バンクドナー登録マニュアル 第1版」の存在は71.4%が知っていた。また、地域に母乳バンクの登録施設があることは理想的かとの質問には「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で85.7%と高かった。しかし、「母乳バンクとのドナー登録施設の契約が難しいと思うか」との質問には、「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で57.2%と半分以上となり、約40%は「どちらでもない」「全く違う」と回答していたことから、契約のハードルは心理的な観点も含め低くなかった。

また、「ドナー希望者との面談が難しいと思うか」との質問では、「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で57.2%、「ドナー希望者の情報の管理が難しいと思うか」との質問に関しても、「全くその通り」と「どちらかというとその通り」で71.5%になった。

登録施設が増えることへの賛意はあっても、実際に登録施設になることへのハードルは高いと思う施設が多い。その解決には、母乳バンクからの支援が望まれていた。

本研究の限界として、対象者198名のうち7名の回答に基づいた分析結果であることが挙げられる。一方、日頃から母乳育児支援に取り組んでいる母乳バンクのドナー登録にも協力的であると考えられる対象者からの回答であることを踏まえると、母乳バンクからの支援の強化に優先的に取り組むことで、登録施設を増やすことができる可能性が示唆された。

E 結論

登録施設が増えることへの賛意はあっても、実際に登録施設になることへのハードルは高いと思う施設が多い。その解決には、母乳バンクからの支援が望まれていた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Nishimaki S, Iwama K, Yamamoto M, Ikegaya T, Uozumi A. Breastfeeding rate survey: Analysis by combining

factors of presence of previous
delivery and age in Japanese women.
Pediatrics International. In press

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし